

令和7年度 後期 ビジネス・キャリア検定試験

ロジスティクス分野

3級 ロジスティクス管理

試験問題

(11 ページ)

1. 試験時間 110分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、JIS等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和7年11月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となりますので、きれいに消してください。
- (7) 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。
- (8) 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教わること・指定されたもの以外のものを机の上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題文中、次の法令名は略称で記載されています。

- ・物資の流通の効率化に関する法律 → 物流効率化法
- ・自動車運転者の労働時間等の改善のための基準 → 改善基準告示

問題1 物流という用語の一般的な説明として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 輸送・保管・荷役などの機能を対象にする物的流通の略語である。
- イ. モノの移動を意味する物資流動の略語である。
- ウ. モノを生産する企業の活動である。
- エ. モノを運ぶ輸送手段を指すこともある。

問題2 ロジスティクス管理の範囲の変化に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 流通構造の変化により、業態別管理から業種別管理への変更の必要に迫られた。
- イ. 大量生産・広域販売により、輸送と保管を統合して管理する必要に迫られた。
- ウ. 市場の不透明化により、商品の品切れと在庫の削減への対応の必要に迫られた。
- エ. 情報化の進展により、企業間での調達・生産・販売を対象とする必要に迫られた。

問題3 ロジスティクス部門と製品開発部門・生産部門との関わりに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. DFL (Design for Logistics) とは、製品在庫を圧縮するため、最新の流行を取り入れた製品を開発することをいう。
- イ. 欠品と過剰在庫を削減するため、需要予測を参考に、生産部門は生産計画を立案し、ロジスティクス部門は在庫の配置方針を策定する。
- ウ. 国内で新たな工場の立地先を選定するには、原材料調達や労働力確保の容易性を優先し、市場までの円滑な製品輸送は、立地選定後に速やかに検討する。
- エ. 製品トラブルが発生した際、当該品の回収の遅れが会社の信用を大きく毀損することになるため、ロジスティクス部門は回収専門の部署を設置しておく。

問題4 物流業界の人手不足対策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 新卒者の採用を促進するため、インターンシップ等を通じ職場への親しみを深めてもらう。
- イ. パートタイム従業員の採用を円滑化するため、託児所や充実した休憩施設等を整備する。
- ウ. 定着率を向上させるため、離職者の了承を得た上で聞き取りを行い、離職理由を調査し、改善策を検討する。
- エ. より多くのパートタイム従業員・アルバイト等を確保するために、正社員より待遇を制限する。

問題5 環境資源問題に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 循環型社会への転換に向けた3つの柱の3Rとは、Reduce（発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）である。
- イ. SDGsは、持続可能な開発目標を目指す国際的な枠組みである。
- ウ. SDGsの目標は、開発途上国を対象とした内容となっている。
- エ. 2023年度における日本全体の二酸化炭素排出量の2割弱は旅客と貨物を合わせた運輸部門が占めている。

問題6 トラック運送業（労働関係法令では陸上貨物運送業）の安全対策等に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. トラックの運行という事業特性から、労働災害の発生場所は「荷役作業場所」よりも「道路上」の方が多い。
- イ. 荷主事業所で、荷主の従業員とトラックドライバーが協同作業をする場合、作業指揮者は荷主の従業員から選任するのが望ましい。
- ウ. 作業者は、テールゲートリフターに貨物等と同乗してはならない。
- エ. トラックドライバーが荷主の事業所内で労働災害に遭った時、事業所内の安全対策が不十分であると、荷主が安全配慮義務違反に問われる場合がある。

問題7 我が国の物流政策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流関連法規制の基本的方向は、経済面での規制強化である。
- イ. 最初の総合物流施策大綱は1997年に策定され、それ以降継続的に策定されている。
- ウ. 総合物流施策大綱の目的は、関係省庁等の政策の整合性と連携を強化することにより物流政策を総合的に推進することである。
- エ. 総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）においては、「簡素で滑らかな物流」、「担い手にやさしい物流」、「強くてしなやかな物流」の3点を目指すべき方向性としている。

問題8 2025年4月に施行された貨物自動車運送事業法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 運送契約の締結に関連して、提供する役務の内容やその対価等について記載した書面による交付が義務付けられている。
- イ. 元請事業者に対し、実運送事業者の名称等を記載した実運送体制管理簿の作成が義務付けられている。
- ウ. 下請事業者への発注適正化について努力義務を課すとともに、一定規模以上の事業者に対し、当該適正化に関する管理規程の作成、責任者の選任が義務付けられている。
- エ. 特定事業者のうち、荷主には統括運行管理者の選任が義務付けられている。

問題9 近年の法令改正に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 倉庫業法施行規則等の改正により、指定数量未満の危険物等であれば危険品倉庫以外でも保管が可能となった。
- イ. 物流効率化法の改正により、営業倉庫が住居専用地域でも登録できるようになった。
- ウ. 貨物自動車運送事業法の改正により、トラック事業者が法令遵守できるよう、荷主の配慮義務が設けられた。
- エ. 「改善基準告示」によりトラックドライバーの労働時間は、1ヶ月の拘束時間が284時間以内（284時間超は連続3ヶ月まで）、例外で310時間以内（年6ヶ月まで）となった。

問題10 物流サービスに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 顧客ニーズへの対応としては、改善を重ねて単価の安い作業は無料にするのが最適解である。
- イ. 物流サービスを提供する際は、コスト削減を最優先にする必要がある。
- ウ. 物流サービスを管理するためには、どの顧客にどのようなサービスを行っているのか実態を把握することが必要である。
- エ. 物流サービス水準を上げると、常に売上げ・利益ともに増加する。

問題11 物流サービスの維持・向上に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 取扱量の増加や労働力不足によってサービスレベルが維持できなくなることを見越して、物流ロボット等を導入した作業の自動化も検討する。
- イ. 物流サービスを向上させる場合、物流部門は他部門に相談する必要はない。
- ウ. 作業時間短縮とオペレーションミス対策のため、在庫ロケーションの最適化やピッキング等の作業方法の検討を行う。
- エ. 顧客との契約内容を定期的に見直し、物流サービスレベルに関する項目（納期遵守率、リードタイム、情報提供の頻度など）を明確にする。

問題12 物流サービス管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 自社の物流サービスを評価する方法の一つに、競合他社の物流サービスとの比較がある。
- イ. 配送ドライバーの接客サービスにクレームが増加したので、ドライバーと顧客を対象に、ヒアリング調査やアンケート調査などを行うことにした。
- ウ. 物流サービスの品質を確認するため、評価チェックシートを作成して問題点を調査することにした。
- エ. 輸送中の貨物の汚損・濡損など、貨物品質に問題が発生することを品質事故という。

問題13 物流品質の維持・向上の取組みに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 各作業工程において、作業の標準化と作業のマニュアル化を行うことが有効である。
- イ. 納期遵守率を高めるため、製品の在庫数を増やす対応策を行った。
- ウ. 物流品質の改善に当たり、検討項目を絞り込むには「QC7つ道具」のパレート図を活用することも有効である。
- エ. 重点項目を分析、抽出し、そもそも物流品質トラブルを起こしにくい作業工程や手順とすることが重要である。

問題14 ロケーション管理に関する一般的な記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 固定ロケーション方式は、出荷頻度を考慮した商品保管が可能で、ピッキング効率の向上が図れる。
- イ. ピッキング効率を高めるために、在庫をピッキング用、ストック用に分ける場合、前者を固定ロケーション方式、後者をフリーロケーション方式とする。
- ウ. 自動倉庫では、固定ロケーション方式で保管場所を管理している。
- エ. フリーロケーション方式の採用には、情報システムや情報機器類との連携が必要である。

問題15 物流システムを構築する際の考え方に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 顧客の業種業態に関わらず、同じシステムとなるように構築する。
- イ. ヒト・モノ・カネ・情報の経営資源を合理的にコントロールして構築する。
- ウ. 安全・迅速・確実、かつ低コストになるように構築する。
- エ. 交通問題や環境問題等の外部不経済の発生を抑えるように構築する。

問題16 加工食品卸売業の物流システムに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 在庫品目は、全ての物流拠点で全品目共通としている。
- イ. エリア毎に発注担当者が決まっているのが一般的である。
- ウ. 一括物流では、物流センターを経由しないでメーカーから店舗に直送される商品にもセンターフィーが求められる。
- エ. 加工食品卸売業における物流センターは、自社運営よりも物流事業者に委託する方が多い。

問題17 物流業務の効率化とその手法に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 倉庫内作業の効率化には、労働生産性を分析することが有効である。
- イ. 倉庫内作業の効率化には、一般に作業者の歩行距離の実態を分析することが有効である。
- ウ. 輸配送業務の効率化には、在庫量を分析することが有効である。
- エ. 輸配送業務の効率化には、出荷個口数、出荷単位や荷姿を分析することが有効である。

問題18 新たな物流センターを設定するに当たり、配慮や工夫をすべき項目として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 現状の取扱品目や数量から必要面積の設定を行う。
- イ. センターを起点とした配送先への距離で決定する。
- ウ. 海外から輸入される商品がある場合であっても、国内配送の利便性を優先的に検討する。
- エ. パートタイム従業員が確保しやすいかも重要となる。

問題19 入札による物流外部委託の委託先選定手順に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 「委託先の募集」に先立って行う社内検討では、物流の現状を把握しておくだけでよい。
- イ. 「委託先の募集」では、詳細な情報を全て開示する。
- ウ. 「1次選考」では、応募各社の実績や財務状況は考慮せず、提出された企画提案内容のみで評価を行い、委託先候補企業の絞込みを行う。
- エ. 「2次選考」では、更にプロジェクト体制やスケジュールの提案も含めて総合的な評価を行い、委託先企業を決定する。

問題20 物流センターに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 労働力不足に対応するためには、デジタル化や自動化を進めるのが有効である。
- イ. 日配品の物流センターは、受注から納品までのリードタイムが短いため、集約しやすい。
- ウ. メーカーにおいては、物流センターを増やすことで配送先への配送費用及び在庫費用の削減が可能となる。
- エ. 貨物自動車運送事業法は、物流センターを高速自動車国道のIC・港湾などに近接した地域に集約し、共同輸配送や配送ネットワーク網を合理化すること等を目的としている。

問題21 貿易におけるL/C（信用状）決済に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. L/C決済は、輸入者（販売先）の信用状況や代金回収に不安がある場合に利用される代金決済方法である。
- イ. L/C決済は、D/P（手形支払書類渡）決済やD/A（手形引受書類渡）決済に比べて銀行の手数料コストが低い。
- ウ. L/C決済では、売買契約を結んだ後、輸出者が取引銀行にL/Cの発行を依頼する。
- エ. 近年は、リードタイム短縮のために、L/C決済を行う事例が増えてきた。

問題22 在庫管理に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. バーコードによる管理を実施している倉庫で、海外生産品など商品バーコードが貼付されていない商品は、商品名を目視によって管理するのが効率的である。
- イ. 食品など、製造日が表示されている商品の在庫は、誤出荷を防ぐために商品毎にまとめて配置する。
- ウ. 出荷指示により引き当てが行われた商品は、その時点で倉庫管理システム上の在庫から引き落とされるのが一般的である。
- エ. 食品など、複数商品を組み合わせてギフト商品をセット組みする流通加工では、商品コードの変換が必要である。

問題23 適正在庫量を決定する要素に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 安全在庫とは、商品の補充手配を行ってから入庫するまでの平均出庫量である。
- イ. 正規分布では、平均値の付近の発生確率が最高となる。
- ウ. 標準偏差は、日々の出庫量と平均値の差の2乗の合計を出庫データ数で割った値の平方根である。
- エ. 在庫サービス率と品切れ率は、負の相関関係にある。

問題24 在庫分析の手法とその活用に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. アパレル商品を扱うW倉庫では、在庫レイアウトを見直すため、出庫頻度に応じたパレート（ABC）分析を行った。
- イ. 食品メーカーX社は、物流センターの在庫についてパレート（ABC）分析を行った結果、Cランク商品の在庫は集約することにした。
- ウ. 家電メーカーY社では、在庫鮮度分析を行い、鮮度の高い品目の比率が高くなるように在庫の管理を徹底している。
- エ. 食品卸売業Z社は、在庫の先入れ先出しが適正に行われているかを調べるために、商品アイテム毎に流動数曲線のグラフを作成した。

問題25 棚卸に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 期末在庫高が実在庫よりも過大に計上されると、売上原価が増加し、利益が減少する。
- イ. アイテム数が多い商品などは、循環棚卸を行うのが一般的である。
- ウ. 一斉棚卸は、期末決算などに行うのが一般的である。
- エ. システム上の棚卸資産と現品の差異を放置しておくこと、財務諸表の虚偽記載となり得る。

問題26 輸送機関の種類と内容に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. RORO船では、船に装備されているランプウェイを利用して車両が船倉まで入ることができる。
- イ. フレーター輸送とは、機体全体を貨物スペースとし、大型・大量の貨物を搭載して輸送できる貨物専用機による輸送をいう。
- ウ. 鉄道貨物輸送の取扱量では、現在、コンテナで運ぶコンテナ輸送が、貨車を1両貸し切って運ぶ車扱輸送を上回っている。
- エ. リンボー車とは、車体後部にリフトを付けた車両であり、ロールボックスパレットを積むことの多いコンビニエンスストアの配送などで使われる。

問題27 貨物追跡管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 貨物追跡管理とは、出荷から配送完了までの輸配送における一連の状況を管理することである。
- イ. 物流事業者にとって貨物追跡管理の目的は、輸配送品質レベルの向上と物流コストの削減である。
- ウ. 出発、配達店到着、配送完了など主要な経過地点毎に通過登録を行うことで貨物追跡管理が実施されている。
- エ. 近年では、GPSから車両の位置情報を取得し、走行状況をリアルタイムに把握して貨物追跡管理に活用されている例もある。

問題28 ユニットロードシステムのメリットに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. フォークリフトなどの機械荷役が可能となり、倉庫内での荷役、運搬や輸送機関への積卸し作業の時間が短縮できる。
- イ. 個々の貨物での荷扱いの機会が減少し、荷傷みのリスクはなくなる。
- ウ. ユニット単位で管理するため、検品工数が削減され、検品ミスが減少する。
- エ. 人力荷役に伴う腰痛発生などに対する労働環境の改善にもつながる。

問題29 我が国の企業の国内物流における物流コスト管理等の実態に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 商品、資材等を仕入れる場合、買い手の輸送費に占める調達輸送費の比率が高い企業が多い。
- イ. 製造業においては、一般に、輸送費より保管費の割合が多い。
- ウ. 自家物流費よりも把握が容易であることから、支払物流費は多くの企業で把握されている。
- エ. 流通業においては、欠品や納期遅れによる機会損失に関連する物流コストの把握が最も重視されている。

問題30 運賃料金・倉庫料金に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. トラックドライバーが、発荷主の倉庫で荷積みする際の附帯作業料金は、倉庫料金における荷役料の料率・規定が適用される。
- イ. 複数の事業部門の貨物をまとめて1台で出荷できる場合など、積合せが容易な場合には、貸切運賃よりも、積合せ運賃を適用した方が荷主にとってはメリットがある。
- ウ. 不動産賃貸契約に基づいて倉庫を賃貸する場合の料金は、営業倉庫における保管料の規定が適用される。
- エ. 委託料金は、物流センターの通過商品金額に応じて設定する場合もある。

問題31 荷主における物流コスト算定の考え方に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 自社所有の工場建屋の遊休スペースを保管に使用した工場の遊休スペースの減価償却費は、製造原価に含まれているため、物流コストには含めるべきでない。
- イ. 物流コストの算定範囲は、物流部門の所管領域で発生するコストに限られる。
- ウ. 倉庫会社に賃借料という名目で支払った費用であっても、全てが物流コストであるとはいえず、明細等で詳細を確認する必要がある。
- エ. 経年劣化等に伴う在庫評価損は、物流コストの一つである。

問題32 物流におけるコスト・トレードオフに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. オフィス家具をパーツ梱包で輸送し、配送先で組み立てることにした。小容積化で輸送コストが削減できたが、納品先での組立作業に要するコストが増加した。
- イ. 製品の輸送梱包を、段ボール箱から通い箱に変更した。これによって包装資材に係るコストが削減できたが、通い箱の返送のための輸送コストが増加した。
- ウ. 工場から全国の在庫拠点への補充輸送の頻度を減らした。これによって、輸送コストが削減できたが、在庫保有コストが増加した。
- エ. 工場から在庫拠点までの幹線輸送を、トラックから鉄道輸送に転換した。これによって、積み替え時の荷役コストを削減できたが、到着までの所要時間の増加によって、在庫保有コストが増加した。

問題33 受注処理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 数量チェックとは、受注した数量が著しく大きくないか、受注単位と数量が合っているかどうかの確認を行うことである。
- イ. 納期チェックとは、希望納期に納品できるかの確認を行うことである。
- ウ. 受注チェック後の在庫照会で、引き当て可能在庫がないときは、受注を自動的にキャンセルする。
- エ. 在庫引き当て済みのオーダーは、ピッキング指示などの出荷情報処理が行われる。

問題34 小売業の発注処理に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 発注処理にEOSを活用すると、物流サービスが向上する。
- イ. VMI（ベンダー在庫管理方式）の場合、ベンダーが受注数から納入量を決定する。
- ウ. 業界VANを通して発注処理を行う場合には、自社による発注システムの構築が簡易になることや、発注業務が効率化するメリットがある。
- エ. 発注側と受注側の協議で発注内容を決める場合（CPFR：需要予測と在庫補充の協働取組）は、両者がそれぞれ行う需要予測の最小値を発注量とする。

問題35 WMS（倉庫管理システム）に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. WMSは、①在庫受払処理、②ピッキング・仕分け処理、③クレーム処理から構成される。
- イ. WMSの導入目的の一つは、倉庫内の作業生産性向上である。
- ウ. WMSは、在庫実態を正しく把握する上で有効であるが、物流品質と直接的には関係しない。
- エ. WMSは、倉庫に関する情報システムであり、基幹システム（ERP）などとは連携しない。

問題36 TMS（輸配送管理システム）の目的に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 貨物追跡によって顧客サービスを向上させる。
- イ. 温暖化・大気汚染防止等の環境対策に寄与する。
- ウ. 顧客先でのトラックの積卸し作業時間を短縮する。
- エ. 日報作成など、ドライバーの負担を軽減する。

問題37 ロジスティクス情報システム構築の考え方に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 情報システムと各種機器をつなぎ、物流センター内の作業を全て自動化することが望ましい。
- イ. 配送距離の短縮や積載率の向上など、環境対策を考慮して構築することが望ましい。
- ウ. 多くの利用者の存在やデータ収集の容易さなどから、インターネット利用のシステムを構築することが望ましい。
- エ. ロジスティクス情報システムは、異業種・他企業とのネットワークを構築するので、標準規格のコード、ラベル、EDI等の利用が望ましい。

問題38 荷主企業のERP（パッケージ）とロジスティクス情報システム導入に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 全社の棚卸資産は、頻繁に変化するため、ERPとは別のシステムで管理する方が望ましい。
- イ. 受注処理は売上げに直結するため、受注方法が多様な場合であっても、ERP内の機能を用いて行うことが望ましい。
- ウ. GPS等を活用した運行管理システムは、ERPとは別に、独立したシステムとして構築する。
- エ. 全てのERPには、需給管理を支援するための需要予測や、各種計画の策定機能が標準装備されている。

問題39 パッケージ・システムの導入に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. パッケージ・システムは、どの会社の製品も各種要望に対応するように開発されているため、パッケージ選定の際は業種による違いを考慮する必要はない。
- イ. 導入候補となったパッケージ・システムに対して、まず、その機能と自社業務や要件との違いを明確にするフィット・アンド・ギャップ分析を行う。
- ウ. パッケージ・システムと自社業務との間で異なる部分への対応は、なるべく条件設定で対応できる範囲にとどめ、対応できない部分については業務を変更することも検討する。
- エ. パッケージ・システムの導入であっても、運用テストを行う必要がある。

問題40 2次元シンボルに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 目視で読み取ることができる。
- イ. 印刷が容易であり、ラベルコストも安価である。
- ウ. データ密度を高めると、処理時間が長くなる。
- エ. かな、漢字などが、バイナリデータとして記録できる。